

(様式4)

◆ (氏名) 松尾 知明

<所属・職名>

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

<略歴>

福岡教育大学卒業後、公立小学校勤務。ウィスコンシン大学マディソン校教育学研究科博士課程修了、Ph. D。浜松短期大学・講師、国立教育政策研究所・総括研究官等を経て、現職。

<これまでの研究活動、外国人児童生徒等教育に関する経験など>

多文化共生と教育をテーマに、「差異と共いかに生きていくのか」を追究する教育のあり方について考察しています。アメリカ合衆国の多文化教育に関する研究から始め、諸外国における多文化教育の国際比較研究や、日本における多文化教育の構築をめざして、外国人児童生徒教育、多文化クラスにおける教育実践、多文化共生を育む教師などについても考察しています。著書に『21世紀型スキルとは何か』『多文化教育の国際比較』『「移民時代」の多文化共生論』(以上、明石書店)、『多文化教育をデザインする』(編著・勁草書房) 他。

<対応可能学校種>

全校種

<遠隔での指導助言> ※いずれかの□にチェックを記入してください。

対応可

対応不可

<その他(国等の委員歴等)>

2019年5月31日～ 文部科学省「外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議」委員

<関連URL>

<講師として担当可能な内容>

別紙「講師として担当可能な内容(モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)」のA～Nの書く欄に、◎または○を付けてください。

※別紙に○を付けていただいた内容は、一覧表に整理して文部科学省ホームページに掲載いたします。

※ 本様式は文部科学省ホームページに掲載いたします。

講師として担当可能な内容（モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応）

内容	○大項目 ・小項目 ※項目の一部は複数の内容で取り扱う	担当可能◎ 基礎的内容 は可能○
A 外国人 児童生徒等 教育の課題	○グローバル化と外国人児童生徒等 ・多文化化する学校 ・複言語主義 ・多文化主義 ・言語的マイノリティ ○文化間移動とライフコース ・成長・発達の視点 ・社会参加と自己実現 ・アイデンティティ ○多文化共生教育 ・異文化間能力 ・ダイバーシティ ・市民性 ○公教育の役割 ・社会的正義、公正性 ・学習権・言語権 ・教育コミュニティ ○日本語教育の位置付け	◎
B 外国人 児童生徒 等教育の 背景・現 状・施策	○外国人児童生徒等の現状と背景 ・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」 ・在留外国人統計 ・在留資格 ・児童生徒の出身地の教育制度 ・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン) ○外国人児童生徒等教育施策 ・「特別の教育課程」としての日本語指導 ・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール ・就学義務と学習権（不就学、義務教育年齢超過） ・学校制度と入試（高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率） ○地域の特性 ・当該自治体の多文化化状況（集住／散在） ・エスニック・コミュニティ ・外国人支援の状況	○
C 学校の 受け入れ 体制	○自治体の受け入れの流れ ○自治体（教育委員会）の指導体制 ・日本語学級の設置 ・拠点校（センター校） ・巡回指導 ・通級 ・初期集中日本語指導教室（プレクラス） ・就学前準備教育教室（プレスクール） ・日本語指導員・母語相談員の派遣 ○校内の指導体制 ・校務分掌（外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当） ・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携 ・教員の加配 ・派遣日本語指導員、母語相談員 ・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者 ・取り出し指導（抽出指導）／入り込み指導 ・「特別の教育課程」と個別の指導計画 ・評価と成績 ○教員・支援員間の連携 ・校内教職員・支援員の連携 ・他校との連携 ・保幼小中高間連携	
D 文化適 応	○外国人児童生徒等の文化 ・宗教 ・習慣 ・学校文化（「隠れたカリキュラム」） ・非言語行動 ○文化接触 ・自文化中心主義／文化相対主義 ・文化本質主義／文化構築主義 ・ステレオタイプ、偏見、差別 ・対話 ・異文化の受容 ・自己肯定感 ○子どもの文化適応 ・異文化適応のプロセス ・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化） ・情意面、行動面、認知面の違い	○

<p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p>	<p>○母語と第二言語 ・バイリンガリズム ・二つの言語の関係（二言語相互依存仮説） ・言語環境 ・言語の使い分け ○アイデンティティ ・アイデンティティの動態性・多面性 ・母語・母文化とアイデンティティ ○母語／継承語教育 ・家族とのコミュニケーション ・認知面の支えとしての母語 ・母語保持・伸長の支援</p>	<p>○</p>
<p>F 言語と認知の発達</p>	<p>○子どもの言語発達 ・一次的事ことばと二次的事ことば ・萌芽的リテラシー ・ことばと思考 ・第二言語習得のプロセス(沈黙期、チャンク等) ・言語発達と発達障害、学習障害 ○言語能力の捉え方 ・コミュニケーション能力 ・言語の四技能 ・生活言語能力と学習言語能力 ○言語能力の測定法 ・言語テストの目的、実施方法、結果の活用 ・言語能力測定ツール（文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント(DLA)」）</p>	
<p>G 日本語の特徴</p>	<p>○外国語としての日本語 ・音韻、文字・表記、語彙、文法 ・学校文法との違い ・諸言語との対照 ○文章・談話 ・ジャンルと文体 ・ことばの機能 ・表現の意図 ・結束性 ○場面とことば ・言語使用域 ・敬語 ・話しことばと書きことば ・共通語と方言 ・ことばの性差</p>	
<p>H 子どもの日本語教育の理論と方法</p>	<p>○日本語指導の内容（シラバス） ・構造（文型）、場面、トピック、機能 等 ○言語教育の考え方と方法 ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（文部科学省「JSLカリキュラム」） ・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導 ○学習活動 ・文型練習（パターン・プラクティス等） ・意味を重視した活動（タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等） ○教材・教具（リソース）の利用と作成 ・教材の分析 ・教材の作成（補助教材・ワークシート・リライト教材等） ・メディアの活用 ・知的財産権・著作権 ○教科の指導 ・「主体的・対話的で深い学び」 ・教科教育法 ・授業のことば ・教科のことば ・学習参加のための支援</p>	
<p>I 日本語指導の計画と実施</p>	<p>○日本語のコース設計の手順 ・実態把握（学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境） ・目標設定と指導内容の決定 ・指導方法と評価方法の決定 ○日本語プログラム ・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSLカリキュラム」）、教科の補習 ・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム ○指導計画の作成 ・年間指導計画の作成 ・対象児童生徒と指導期間の決定 ・目標と評価 ・日本語プログラムの組み合わせ ・「特別の教育課程」としての日本語指導 ○模擬授業 ・日本語指導の学習指導案の作成 ・模擬授業の実施 ・振り返り</p>	

J 在籍学級での学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ○学習参加のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・スキヤフオールディング（足場かけ 例：「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点） ・フォーカス・オン・フォーム ○学習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・校内、教室内の掲示 ・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題） ・周囲の児童生徒との相互学習 ・周囲の児童生徒による支援 ○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント） 	
K 社会参加とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現 ・ロールモデル ・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス） ・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置 ・就労と在留資格 ○社会参加とことばの力 <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー ・社会参画 ・市民性教育 	
L 保護者・地域とのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の教育参加の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語） ・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ） ・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施 ・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等） ○多文化家族 <ul style="list-style-type: none"> ・言語・文化の違いによる断絶 ・サード・カルチャー・キッズ ○地域、専門家との連携・協力 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の外国人支援の状況 ・エスニック・コミュニティ ・居場所づくり ・国際交流協会、NPO 団体等との連携 ・福祉・医療等関連機関との連携 ・大学等教育研究機関との連携 	
M 現場における実践（実地教育・研修）	<ul style="list-style-type: none"> ○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施） <ul style="list-style-type: none"> ・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解 ・指導体制・指導条件の多様性の理解 ・条件に応じた指導計画の作成 ・状況に応じた支援の工夫 ・関係者との連携・協働 ○実施記録の作成と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・現場の状況 ・実施内容 ・授業・活動時の児童生徒の参加状況 ・担当教員・関係者から得た情報 ○実施した授業の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導計画について ・当初の子ども観・教材観・指導観等 ・児童生徒の学び ・授業時の支援・対応について ○現場での実践における倫理 	
N 成長する教師（教員・支援員）	<ul style="list-style-type: none"> ○省察的实践家 <ul style="list-style-type: none"> ・自己の変容 ・自己研修 ・実践の共有 ○外国人児童生徒等教育の専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育に関わる専門性 ・外国人児童生徒等教育に関わる専門性 ・他の領域の専門家との協働 ○教師（教員・支援員）としての成長 <ul style="list-style-type: none"> ・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味 ・リーダーとしての役割 ・新しい価値の創造 ・社会への働きかけ 	○

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（公益社団法人日本語教育学会）